



私たちは聴くことを大切にします。
ESの文字を左右対称に合わせることでより
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い
聴くことを表現しています。

NPO 法人えんばわめんと堺/ES
NO.45 2025年4月発行

もくじ

- P 2～3 【イベント報告】 こども基本法で堺が変わる～堺市に子ども条例を～パート2
- P 4 【イベントのお知らせ】 こども基本法で堺が変わる
～堺市に子どもの権利条例を～パート3
- 【講座のお知らせ】 エンパワメント研究会vol.14
- P 5 【研修報告】 『性暴力と子どもの人権』 西岡英子さん
- P 6～7 【事業報告】 SAY(性・生)の会
- P 8～9 【事業報告】 HR(Human Rights)プロジェクト
- P 10～11 【事業報告】 中区子育てひろば
- P 12 子どもの権利条約関西ネットワークの活動から
- P 13 『ESラジオ』
- P 14～15 メンバーエッセイ
- P 16 CAP活動報告・事務局からのお知らせ



えんばわめんと堺の事務所近くに
ひっそりと咲く ゆきやなぎ

【イベント報告】

『こども基本法で堺が変わる～堺市に子ども条例を～パート2』

2025年2月2日（日）、堺市産業振興センターにて、「堺市に子ども条例を～」をテーマにした学び会を開催しました。こども家庭庁より藤田晃士さん、大阪大谷大学より岡島克樹さんをお招きし、当団体の代表理事 北野がファシリテーターを務めました。



当日は会場に約30名の方が集まり、オンライン参加者も含め、予想以上の方々に関心を寄せていただき、大変充実した時間となりました。

まず、当団体の橋本より、昨年から取り組んでいる「堺市に子ども条例を～」の企画内容について説明し、堺市全体に広げていくことを伝え、参加者の皆さんに協力をお願いしました。また、子どもの権利条約関西ネットワークの子どもたちの意見や、放課後デイでの子どもたちの声を代読し、「権利を揺さぶられている子どもたちを何年も待たせると、子ども期が終わってしまう。大人の責任としてしっかりと社会に子どもの権利を根付かせることが必要であり、子ども条例の制定がその手段として有効である」ことを伝えました。

◇パネリストからの発表◇

こども家庭庁 藤田晃士さん

藤田さんからは、こども家庭庁の発足についての説明がありました。スローガンは「こどもまんなか」、内部部局と施設等機関の職員を合わせて465名体制で運営されており、その役割として以下の3点が挙げられました。

1. 子ども政策の司令塔
2. 省庁の縦割りを打破し、新しい政策課題や隙間事案への対応
3. 保健・福祉分野を中心とする事業の実施

こども基本法の基本理念として「子どもが個人として尊重されること」「子どもの意見が尊重されること」「子どもの最善の利益が優先されること」などが明文化され、私たちとしては当たり前のことだが、それがしっかり法律になったことの重要性が強調されました。

また、子どもの意見を聴くことの本質について「意見 (view)」は論理的に整理された言語的表現だけでなく、遊びや身振り、絵を含む非言語のコミュニケーションも含まれることが重要であると話されました。これは、こども基本法の策定過程で、子どもや市民、子どもに近い有識者が関わった成果であると感じました。



大阪大谷大学 岡島克樹さん

岡島さんからは、現在進行中の富田林市の子ども権利条例制定プロセスについて報告がありました。市長が選挙公約に掲げたことをきっかけに、トップダウンで条例制定が進行し、市長自らプロジェクトチームを設置し、予算を確保。岡島さんが「こどもまんなかアドバイザー」として招かれ、教育委員会、こども政策課、こども未来部、市民、そして子どもたちを巻き込みながら進められています。

また、条例制定にあたり、市民参画と子どもの意見聴取において「子どもの多様性を尊重する」視点が重要であると強調されました。就学前の子ども、外国につながる子ども、施設で暮らす子ども、不登校の子どもなど、あらゆる子どもを取り残さないための仕組みが検討されています。さらに、人権基盤アプローチを重視し、日本ユニセフ協会が提唱する「こどもにやさしいまちづくり」の理念も参考に、条例案の作成へと進んでいくとのことでした。

先行の好事例として、私たちも学ぶべきことが多かったです。

後半は、参加者からの質問を交え、パネリストとともに学び合う貴重な機会となりました。

◇参加者の感想（一部抜粋）◇

- 「実際に子ども条例を作成中の自治体の現状を知り、どのように進めているのかがわかりました。子どもの声を聴く大切さと難しさを改めて感じました。」
- 「こどもの権利の考え方、条約、法律、条例について改めて考えるきっかけになりました。大人社会が変わらないと、こどもにとってリアリティのある権利にならないと痛感しました。」
- 「子どもが意見表明をすること（気持ちを含めて）や、それをどう施策に反映させていくかを考えさせられました。だからこそ、条例を作るプロセスが大事なのだと実感しました。」
- 「自治体間の格差を感じたが、それでも自分たちの住む市にも子ども条例制定の機運を高めたいという前向きな気持ちが湧きました。」

◇堺市での動きと今後の展望◇

堺市では、子ども青少年局が子ども条例の制定に関わる可能性のある部署ですが、2024年12月に「こども計画案（2025年度から5カ年）」が発表されました。計画では、少子化対策や子育て支援、教育・保育の充実に重点が置かれているように感じますが、子どもの権利を社会全体でどう周知し、子どもが権利の主体として実感できる関わり方をおとなが学ぶこと、子どもの意見をどの場で誰が聴き、施策にどう反映させるのか、といった視点をもう少し盛り込んでほしかった。さらに、子ども条例の検討も進めるべきです。そのような内容を、当団体のメンバーと子どもたちとでパブリックコメントに書き込みました。

計画案の「校則の見直しに子どもが主体的に参画する仕組みを構築する」「安心して過ごせる場を増やす」には子どもから共感の声が上がり、自由な遊び場が欲しいといった意見が寄せられました。今後、これらの意見がどのように反映されるのかを検証しながら、堺市での子ども条例制定に向けて引き続き取り組んでいきます。



次回、5月17日のパート3も、ぜひご参加ください！（次ページをご覧ください）

【イベントお知らせ】



前ページでお知らせした『堺市に子どもの権利条例をパート3』を「第23回総会イベント」として開催します。共に考え行動する仲間を増やし、ネットワークを広げていきたいです。ぜひご参加ください。参加費無料です。



【講座のお知らせ】

エンパワメント研究会 vol.14
子どもへの関わりにエンパワメントのシャワーを！

子どもたちが育ち・学ぶ土壌にエンパワメントのシャワーを注ぐことで子どもたちの力がふくらみます。関わり方をともに学び合い、あなたもエンパワメント者になりませんか。

- ① 4/15 (火) 9:30~12:00 **終了** 3
「子どもの声を聴く」～子どもの権利～
- ② 5/8 (木) 9:30~12:00 セミナー室1
「子どものバウンダリー（境界線）」～子ども×おとな～
- ③ 6/19 (木) 13:30~16:00 セミナー室3
「子どものエンパワメント」～子ども×社会～
- ④ 7/26 (土) 13:30~16:00 セミナー室3
「エンパワメントの悪夢」～場・多様性・個～



ガイドブック「エンパワメント者への道しるべ」を活用して講座を開催します。会場でも販売しています。(2,000円税込)

会場はすべて堺市産業振興センター

参加費（1回につき）一般 3,000円（学生 2,000円）・賛助会員 2,000円・正会員 1,000円

『性暴力と子どもの人権』

11月2日に、堺市産業振興センターで大阪大学 ダイバーシティ&インクルージョンセンター副センター長 西岡英子教授を迎えてお話をお聞きしました。

内容は、①国内法（刑法）の性暴力規定 ②欧米との比較 ③子どもの保護規定の国際規定の比較④日本の性暴力に関する法律⑤日本の性教育の課題⑥グループディスカッション、⑦性暴力被害者支援～海外の被害者支援団体の事例から学ぶ～⑧障がい者への性暴力⑨性的マイノリティへの性暴力⑩オンライン性暴力⑩アンコンシャスバイアスとたくさんの性暴力に関する、法律や制度について学びました。

性暴力に関する現状の深刻さと、社会全体で取り組むべき課題の多さに改めて衝撃を受けました。

法改正が進んでいるとはいえ、被害者が声を上げられない現状や、同意の概念が十分に浸透していない現状を知り、私たち一人ひとりの意識改革が不可欠だと痛感しました。特に、被害者が被害を認識するまで、また専門機関に相談するまでに長い年月を要するという事実は、社会の無関心さを示しているようで胸が痛みました。

不同意性交等罪の成立は、被害者保護の観点から大きな一歩だと思えます。しかし、欧米諸国との比較を通して、日本の法制度にはまだ改善の余地があると感じました。特に、同意の定義や性教育の内容については、より包括的で実践的なアプローチが必要だと感じます。

講座のなかで、障がい者や性的マイノリティなど、多様な背景を持つ人々が直面する性暴力の問題にも触れられていました。誰一人取り残さない社会を実現するためには、これらの問題にも目を向け、支援の輪を広げていく必要があります。

また、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）が捜査や裁判に影響を与える可能性についても考えさせられました。私たち自身も、無意識のうちに偏見を持っている可能性を認識し、常に客観的な視点を持つように努めなければと思いました。



講座に参加して、私たちがまずできることは、私たちの子どもの人権活動同様、性暴力に関する正しい知識を身につけること、そして被害者に寄り添い、支援する姿勢を持つことだと改めて感じました。そして、性暴力のない社会を目指して、声を上げ続けることが大切だと思いました。

（ふじた）

SAY(性・生)の会

中学生／高校生／SAY(性・生)の会プログラムで、頂いた感想を紹介します



いろいろな意見がある。否定したり圧をかけたりしない。その人ひとり一人のペースがある。

言葉だけの説明ではなく、劇もやってくれて、みんなで話し合えて分かりやすかったです。

今日の授業はこれからの生き方について役立つ話だなととても思いました。

今パートナーがいないけど、もしそういう風になった時、「Yes」「No」と言えることが大事だと思いました。自分は相手にちゃんと言いたいことを言えるように生きていきたいなと思いました。

性のあり方、身体事情、周りにとらわれず自由に生きたい。

周りからの圧力とかで焦ったりしたらダメだし、避妊は大事。安全第一！

話し合ったり、相手の思いを聞いたり、対等な付き合いをするためには大事だなと思いました。

保健体育で習ったものも出て来て復習になったし、どの授業でもやらないようなことを、今日は学べた。

コンドームがめっちゃヌルヌルしててちょっと気持ち悪いと思ってしまった。でも大事だからそのことも知れて良かったです。

人それぞれ全く違う境界線があることを知りました。なかなか言い出せない人もいると思うから、相手が本音を言いやすい関係づくりや、自分が勝手に相手に触れないようにしようと思いました。妊娠したら困る年齢はできるだけ行為をしないようにしようと思ったし、もし妊娠してしまったら自分の気持ちを一緒に親に相談しようと思いました。

ロールプレイの「恋人なんだからキスした方がいい」とか「相手が待ってる」とか劇としてみるとなんてこと言うんだと思うけど、現実でそういうことがあったら言うてしまう可能性は全然あるし、そういうのが人を傷つけるから、自分と人の考え方は違うってことを頭に入れて発言するべきと思いました。

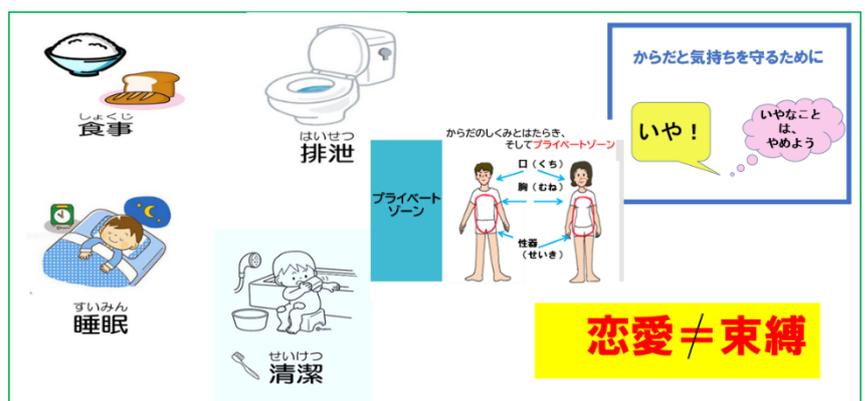
「男やからこうあるべき」「女やからこうあるべき」と言われるのは違うし、めっちゃ共感した。

DVのこととか、性に関する同意のこととか、高校生になると結構身近なことやから気をつけようと思ったし、相手や自分の意志を尊重することは大切やと思いました。

🌿 2024年度 SAY（性・生）の会 ワークショップ実施報告 🌿

対象	実施場所	テーマ
就学前	なみはや福祉会加美東保育園 4歳・5歳児 阪南市立下荘保育所 5歳児	大切なからだと気持ち 大切なからだと気持ち
小学校	阿南市立津乃峰小学校 5年・6年生 放課後デイサービス麦の子 低学年	生命(いのち)の安全教育 性のおはなし「大切な子どものからだと気持ち」
中学校	大東市立諸福中学校 3年生 子どもの里 中学生 大東市立谷川中学校 3年生 大阪府立豊中支援学校中等部 2年生 大阪府立西淀川支援学校中等部 2年生 徳島市立応神中学校 1年生 徳島市立応神中学校 2年生 徳島市立応神中学校 3年生 松原市立第四中学校 3年生 富田林市立金剛中学校 2年生 大東市立四条中学校 2年生	デートDV防止教室～自分も相手も大切にする関係性～ からだの境界線とこころの境界線～性のプログラムより～ デートDV防止教室～自分も相手も大切にする関係性～ 性と生きるについて考える～人と人との境界線～ 性の健康教育～大切なからだと気持ち～ デートDVとは～お互いを尊重した関係づくり わたしのからだときもちを大切に 生命(いのち)の安全教育 人と人とのより良い関係のために 大切な自分を生きる～性的バウンダリー ・性的同意・性暴力にならないために お互いの“ちがいを”認め合う関係づくり デートDV防止教室～自分も相手も大切にする関係性～
高校生	大阪府立長吉高等学校 1年生 大阪府立大冠高等学校 2年生 大阪府立藤井寺高等学校 1年生 大阪府立藤井寺工科高等学校 2年生 大阪府立長吉高等学校 1年生 大阪府立守口東高等学校 1年生 大阪府立寝屋川支援学校高等部 1年生 大阪府立高槻北高等学校 2年生 大阪府立八尾翠翔高等学校 1年生 大阪府立農芸高等学校 2年生 大阪府立西淀川支援学校高等部 1年・2年3年生 大阪暁光高等学校 1年生 大阪府立守口支援学校高等部 3年生	産業社会と人間「性の健康教育・境界線 大切なからだと気持ち」 デートDV防止授業 一人ひとりの心とからだを大切に 性ってなに？生きるって？「性」と「生」の健康教育 自分も相手も大切にしよう性・性～デートDVから考える～ 産業社会と人間「デートDV」 思春期の「性・生」の健康教育～お互いを大切にするために 性と生きるについて考える～お互いを大切にするために～ デートDV防止教室 ライフスキルに基づいた生き方を考える性教育 大切な自分のからだと気持ち 性の健康教育～大切なからだと気持ち～ 人権を視点に性・生を考えるワークショップ 性・生の健康教育～一人ひとりの大切なからだと気持ち
おとな	大阪府教育センター 教職員 認定NPO法人ノーベル スタッフ 中区子育てひろば子育て講座 保護者 大阪府吹田子ども家庭センター救世軍希望館 施設職員 守口市市民生活人権市民相談課 一般 チャイルドラインいずみ受け手ボランティア養成講座 阿南市立津乃峰小学校 教職員 株式会社リニエL スタッフ 和泉地区保護司会 保護司 放課後デイサービス麦の子 保護者・スタッフ	学校におけるセクシュアルハラスメントの防止と対応 基礎編・応用編 お互いのからだとこころを守る関係性—子どもの権利より— 自分のからだを大切に 子どもたちの性についての健康教育 ～性・生を人権の視点から考える～ デートDVとは？若者たちの関係性を考える 思春期の性と生 生命(いのち)の安全教育 障がいのある子どもへの性の健康教育 ～性・生を人権の視点から考える～ 性を人権の視点で考える 障がいのある子どもへの性の健康教育 ～性・生を人権の視点から考える～

2024年度は、32団体・
49ワークショップ
(内おとな11こども38)
3286名にプログラムを届
けました。ご依頼いただいた
団体、参加くださったみなさん
ありがとうございます
(*^-^*)



HR (Human Rights) プロジェクト

堺市西区浜寺昭和校区にある子育てサロン「おたまじゃくし」では、2011年度から毎年、年に1回、子育て講座を実施している。

「子どもの権利」、「コミュニケーション」、「境界線」、「感情の扱い」など、テーマは毎年変わる。サロンの利用者は、就学前の子どもと保護者なので、利用者は毎年変わっていくが、10数名いるスタッフは長年、地域で活動している方たちだ。子育て講座は、毎回、利用者と一緒にスタッフも積極的に参加し、場を盛り上げ、ともに学びあう。

今年度のテーマは感情の扱い。「うれしい、たのしい、感動、いや、イライラ、しんどい」子育てしながら日々、感じている気持ちについて自分がどんな時にこんな気持ちになるのかグループで話す。子どもの成長に感動、夫の行動にハァー、こんなことしちゃった、いろいろな話ができる。すごいやん、あるある～わかるわ～と共感の声があがる。違った考えも「そうなんやー」「なるほど」と受け止める。安心な場だから言える、思いを吐き出すことができる、人との違いも感じ、理解しあう。

「怒りの温度計」というアクティビティーがある。例えば、「子どもが寝たらゆっくり食べようと思っていた大好きなおやつがなくなっていた」という問いに、自分なら、怒りの度合いはどれくらいだろうと、0～100までの温度計の場所に移動し、なぜなのかを話し合う。

100%めっちゃ腹立つ、0%別に…また買ったらいいいし…えーそうなん、限定のおやつやったら？50%相手にもよるなあ、その日の気分にもよる、子どもやったらいいけど、夫やったら許さん！いつものことやから…あきらめてるねん、いろんな声が飛び交う。

0の人は100の人を見てどう思う？その逆は？それぞれが声を出しあい、違いに気づく。答えはない。同じできごとがあっても感じ方は人それぞれであることに気づく。どんな気持ちも大切！怒りの気持ちも自分の大切な気持ち。自分の感情を認めることで、一歩前に進める。

怒りの温度を下げるために、自分も相手も傷つけない、物も壊さない方法を一緒に考える。

自分のことが言える場、もちろん言わない選択もあり。この場が安心な場だからこそそれができる。自分の思いが吐き出せる、そして聴きあえる、そんな居場所が子育て中のおとなにも必要だと思う。

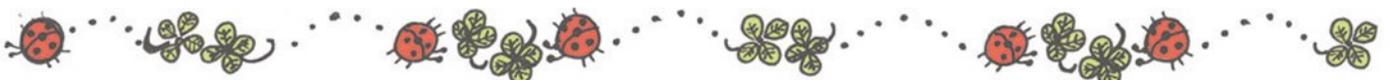
怒りのバロメーター、人によって感じ方がかなり変わるの面白かったです(笑)トーク、進め方がお上手で感心していました。笑いあいの雰囲気もとても良かったです。

毎日、色んな気持ちになりますが、それでいいんだと改めて感じました。お母さん達も積極的に参加されている姿が印象的でした。



いつも楽しみで、この前もお母さん達がいろんな思いを話せていたのでよかったです
私は、途中までだったのですがスッキリした気持ちになりました😊

By ありちゃん



<p>教育関係 (学校・園など) 子ども対象 (クラス単位)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●望之門保育園 年長児 1 クラス 「子どもの権利 自分も相手も大切にするコミュニケーション」 ●滋賀県米原市立柏原中学校エンパワメント講座 1 回目 1~3 年生合同 「より良い人間関係を築くために お互いの距離のとり方と感情の扱い」 ●滋賀県米原市立柏原中学校エンパワメント講座2回目 1 年生「多様性尊重 一人ひとりの違いを理解する」 2 年生「境界線 うわさのしくみ」 3 年生「対等な関係を築くために」 ●泉南市立鳴滝小学校 4 年生 1 クラス「お互いの気持ちが変わるコミュニケーション」 5 年生 2 クラス「感情の扱い」 6 年生 1 クラス「境界線」 ●堺市教育スポーツ振興事業団 百舌鳥小学校のびのびルーム 3, 4 年生「自分も相手も大切にするコミュニケーション」 5, 6 年生「一人ひとりの境界線(プライベートとパブリック)」 ●堺市教育スポーツ振興事業団 錦西小学校のびのびルーム 全学年「感情の扱いと境界線」 ●堺市教育スポーツ振興事業団 福泉中央小学校のびのびルーム 3, 4 年生「多様性尊重 感情の扱い」 ●堺市教育スポーツ振興事業団 原山ひかり小学校のびのびルーム 1, 2 年生「聴く すてきな頼み方」 ●堺市教育スポーツ振興事業団 槇塚台小学校のびのびルーム 3, 4, 5 年生「境界線 一人ひとりの肯定的な力を見つける」 ●豊中市立桜塚小学校 人権学習会 1, 2 年生「聴く 自分も相手も大切にするコミュニケーション」 3, 4 年生「協力 一人ひとりの感じ方の違いを理解する」 5, 6 年生「境界線 うわさのしくみ」 ●豊中市立西丘小学校 1 年生3クラス 「聴く 気持ちを言葉で伝える」 ●大阪府立長吉高等学校 産業社会と人間 1 年生 7 クラス 1 回目「感情と境界線」 2 回目「多様性尊重」
<p>子育て支援関係 おとな対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●堺市西区浜寺昭和校区子育てサロンおたまじゃくし 「そのイライラはどこから？心地よい人と人の関わり」 ●堺市中区子育てひろば子育て講座 「アンガーマネジメントを学ぼう！」～イライラさんと上手につき合う方法
<p>行政・企業関係 おとな対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●尼崎市主任児童委員部会全体研修会 「子どもの権利を考える～主任児童委員、地域住民の視点から～」 ●(株)CLC 指導員研修 1 回目「子どもの人権尊重って何？～子どもの権利より」 2 回目「お互いに心地よく過ごすためのコミュニケーションを考える」 ●尼崎市児童ホーム指導員研修 「子どもの権利を守り、健やかに育むために 私たちのよりよい関わりを学ぶ」 ～子どもの声を聴いていますか？～



堺市 中区子育てひろば

『ひろばで伝える子どもの権利』

3月2日にNPO法人KARALINの松田直美さんを講師にお迎えして、堺市産業センターにて14名が参加した研修が行われました。「ひろばで伝える子どもの権利」が今回の研修の内容でした。

私達ひろばスタッフが学びたかったことは、日頃ひろばを利用する子育て中の保護者の方へわかりやすく子どもの権利について伝えたい、どんな場面でどのような声かけが良いのだろうか？ということでした。

研修が始まり子どもの権利条約についての紹介がありました。批准してから現在までの日本が権利条約についてどれだけ力をいれているのかという現状を知ることができました。その位置付けの1つとしてユニセフの報告書先進国38か国の子ども幸福度ランキングがあり、自分が考えていた順位を大幅に下回る結果に愕然としました。

この結果が日本社会の現状であること、個人の生きづらさは政治的なことにつながっているのだという言葉が視覚的に理解できたランキングでした。このことを知った上で、支援に携わるおとなは何ができるのか？ひろばの持つ役割とは？と考えることができた研修でした。

ひろばにおいて、子どもの権利をどう伝えていけるか？ひろばの持つ役割は何か。

まず、権利を相手に伝えるためには自分が学び落としこむことが重要であること。その中で、私たちスタッフの発言や行動が保護者のロールモデルとなり、子どもの権利を知ってもらえるきっかけに繋がっていくことを学びました。

そして、ひろばの利用時に目が行くポスターなどからでも子どもの権利に繋げることでできるものがあるとの話から、ひろばにまだ来たことのない方、利用しようか迷っている方、出て行きにくいと感じている方へむけて、ホームページにのっているスタッフからのメッセージを『子どものことは子どもに聴かなくてはわからないよね』など、子どもの権利を含めた私たちのおもいを伝える内容に変えていけるのではないかと、ひろば内の掲示に手を加えてみてはどうかなど、スタッフとして出来ることを少しずつ行動へ移していくきっかけになりました。

「子どもの権利とは」のような堅苦しい感じではなく、普段の利用者の方との会話の中で、ちょっと待って、一緒に考えよう、と話題にだすことの積み重ねがひろばのスタッフとして担う役割なのではないかと感じました。

(太田佳世・藤井依子)



9年間 これまでのひろばほっこりエピソード

肩につかまり立ってから顔を見て「あ！ママとちがう！」と気づいたけれどニッコリ笑顔に周りもほっこり

赤ちゃんの人形を横抱きしてあやしている姿

数年ぶりに訪れたひろば赤ちゃんの頃にあそんでいたことを覚えていた我が子の成長した姿にママの目から涙

パパが他の子と遊んでいたからやきもちやいて泣いちゃった

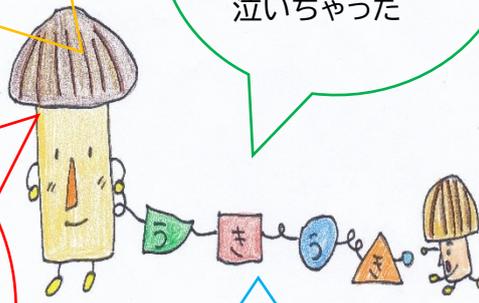
ブロックを繋げることができた自分に拍手～👏周りのひとも一緒に拍手～👏

利用者さん同士で「そんな時あるよね～」などお互い話して聴いて共感「わたしだけじゃないんだ」と実感

「懐かしいわ～」「かわいいね」と2か月の赤ちゃんを囲んでいとおしく見守る利用者さんたちのまなざし

おもちゃの棚にひとりが入ると同じように真似て入ろうとする子どもたち

ひろば内をたくさん歩いた後、ソファでホッとひとやすみ



これから10年目スタート！！引き続き大事にしたいこんなこと・・・

- ☆ 子どももおとなもホッとできるひろば
 - ☆ 「ちょっときいて」をいやすいひろば
 - ☆ その子が「どうしたいか」を考えるひろば
 - ☆ 「自分自身を大切に」を伝えていくひろば
 - ☆ 子どもの力を見つけるひろば
 - ☆ 子どももおとなも学びの場になるひろば
- ～だれもが居心地のいいひろばになるように
学び続けます～(スタッフ一同)



子どもの権利条約関西ネットワーク◇子ども会議チーム◇2024報告



今年度は、日本が子どもの権利条約に批准して30周年という節目の年。これを記念し、やはり日本の中心・東京で全国フォーラムが開催されました。私たちは、大阪から子ども7名・おとな5名のメンバーで参加。毎年好評をいただいている「子どものけんり なんでやねん! すごろく」を携え、東京という地とフォーラムでの人との出会いに、わくわくしながら早朝の新幹線でお出しました。

フォーラム会場では、子どもが安心して参加できる環境を整えるため、「セーフガーディング」の取り組みが徹底されていました。今回、おとなは事前に研修を受けた上で署名を行い、活動に参加できる仕組みになっていました。この新しいルールのもとでの活動は、まだ慣れずに少し窮屈を感じる場面もありましたが、子どもの権利を守るためには大切な取り組みであり、今後のスタンダードになっていくと感じました。(子どものプライバシー保護のため、会場では写真NGでした。)



会場外で記念撮影

【子どものけんりなんでやねん! すごろくを自分たちで役割分担して進行了ました。

最初にしたアイスブレイクでは、普段しているあそびを紹介する感じで、真似っこゲームや命令ゲームをしました。それから、ネットワークの活動の紹介と、参加して思っていることを、ひとりひとりが発表しました。】

子どもにも権利があるんやで。って言えるようになった。言ったら、理不尽なことが減った。

私は、こどもの権利を知っていた方が得だと思えます。昔は嫌なことがあっても「しょうがない」と自分にいいかかせていたけど、こどもの権利を知ったら嫌と言っていいと気がついた。

この活動を通して、自分の気持ちを外に出すことは、悪いことじゃないと知って、前よりは自分の気持ちを言うことが楽になりました。

私は子ども会議の人から話を聞いて権利がとてだいじなことがわかった。それで嫌なことがあったら、—のスタッフに聞いてもらっている。気持ちが楽になったり、落ち着いたりする。

権利を知らない期間が長すぎた。子どもに権利なんてあるの？
「子どもやからしゃーない」って言われてそうか、って思ったけど、違ってた。教えてほしいことを、責められ、怒られて、しんどかった。

2日間の感想「分科会で対話セッションを経験した。自分の意見で大人の考えが変わる瞬間見れた。今まで何回もフォーラム参加してきたけど1番自分のためにもなったし考えさせられたフォーラムやった!! 少しずつでも一人一人の考えが変わっていったってことを身に染みて感じてこの活動してて良かったなって思えたし、こどもの権利に出逢えてほんまよかった」

子ども達の姿はまぶしいです。
あーみん

／ ご視聴いただきありがとうございます ／

ESラジオ 配信開始からもうすぐ1年です

みなさんこんにちは！

えんぱわめんと堺の新たなデジタル発信の1つ、「ESラジオ」の配信を皮切りに、えんぱわめんと堺の活動や理念がこれまでよりも広く多様な方々へ届いていることを実感しています。ご視聴くださっている方々が周囲へお知らせくださっていることが、このような新たなオンラインでの繋がりを築いています。この1年間、「ESラジオ」を自身のSNSでもお知らせを始めてから少し反響がありました。FacebookやInstagramから「ホームページとか見てみたよ〜」「車で聴いてます」など、これまで団体の活動の情報がリーチしていなかった堺市外の多世代の方々からお声をいただくようになってきました。今後の取り組みとしては、ESラジオの音声配信をYouTubeでもご視聴いただけるように現在準備中です。「デジタルとかが苦手やねん」という方も多くおられるのではと感じます。これまでよりもアクセスがしやすくなればという試みでYouTube配信にも挑戦します。

● ESラジオが大切にしていることはどんなこと？

人権を土台に活動するESに関わるさまざまな人の直接の声を届けることで、ラジオを通じて「聴いていて安心する」そんな音声配信を目指します。

● ESラジオって、ESに関わるさまざまな人が話をしているのですね。どんな人がどんなことを話しているのですか？

そうですね。普段、子どもの暴力防止の活動や性教育の活動など子どものあらゆる気持ちや反応に寄り添う中で感じることや気づきを発信します。また、ESメンバーや団体の活動を支える関係者の方々がゲスト出演し、保護者や支援者の話を聴いたりする中で伝えたいメッセージも話していますよ。

● ESで活動しているその人自身が活動で大事にしていることなど、そのひとそれぞれの思いを伝えていくという魅力が出ているのですか？

はい。やはり多様なメンバーがそれぞれの役割や経験の中で感じることや伝えたいメッセージ、それらをESラジオの出演者が自身の声で発信していることは、ラジオの視聴者へダイレクトに届くように感じています。
(あいのっち)

🔊 ESラジオ これまでの番組のコンテンツ情報

Vol. 1 えんぱわめんと堺のこれまでの歩み

Vol. 2 安心ってどんなとき？

Vol. 3 なんでやねん！すごろくについて

Vol. 4 体罰のない社会を目指して

Vol. 5 人間はロボットちゃうねん失敗あってええねんで

Vol. 6 ひとりで悩まないで

Vol. 7 聴くからはじまる

Vol. 8 性教育ってどんなこと？

Vol. 9 子育てひろば ひとりじゃないよ

Vol. 10 子育てひろば ありのままを受け止める

アクセスはこちらから



次回もお楽しみに ♪

【メンバーエッセイ】

齋藤塔子さんの『傷の声 絡まった糸をほどこうとした人の物語』を読んで

この本は著者の齋藤塔子さんが『トラウマへ本気で向き合った記録』です。あまりに内容が濃くて深くて、安易に私などの感想を書けないような気持ちもよぎりましたが、以下に、できるだけそのままの言葉を本から引用して書きました（『』の部分）。

齋藤塔子さんは、『困難の詰まった家庭で育った』その影響で、『死んでつらさを無にしたい』との思いが『どこにいて何をしようか、通奏低音として私の人生のうちに鳴り響いていた』と、綴っています。その心を湯船に例えて、『無償の愛情を注がれ温かさ心地よさに包まれる』ような多くの人とは違い、自分のひび割れた湯船には、『おとなから恐怖と不安を投げ込まれ』渴ききっていたと。おとなになってたくさんの人と出会って愛情を注がれても、子どものころにひび割れた湯船は修復できず『注がれたものは全部漏れる』と表現しています。小学3、4年生のころは湯船を修復してくれるおとなを求め担任にひつつき、5、6年生で相性合わない担任には、問題行動をし、『あらゆるおとなの目を引くことに成功した』とも書かれています。

同じような行動をする小・中学校の子どもたちに、出会うことがあります。心の中のしんどさを表現しているのではないかと案じて、心や目に留まります。逆に何事にも無反応な状態や、視線も上げない、合わない子もいます。私たちに、気持ちをはんの少し聴かせてくれることもあります。また、その子のせいではないのに、しんどさや辛さにも気づいてもらえず、適切な対応がなされていないどころか、「困った子」「嘘ばかりつく子」などと思われていることもあります。野坂祐子さん（大阪大学大学院教授）の研修で学んだことを思い出します。小さなころから、基本的な安心・安全の欠如の状態や機能不全家庭で様々な逆境体験を経験する、そしてそれが信頼すべき人からのものなら、子どもにとっては精神と身体に深い傷を負うこととなる小児期逆境体験（ACEs）です。たとえ、親や養育者に愛されていたとしても、カラダの欲求や、情緒的ニーズを受け止めてもらえず、自分の考えを無視されたり、つぶされることで、自分ではコントロールできなくされ、無力にされてしまうと。そのような体験は、考え方や行動・対人関係・精神性に大きく影響を及ぼし、自分自身も他者も信用できなくなるということです。齋藤塔子さんの本でも、周りにいるおとなたちの関係性や行動、考え方、関わり方等が、いかに子どもに大きく影響するのを読み取れます。おとなとして、子どもに関わることの責任とは何か？深く考えました。

齋藤塔子さんは、幼少の頃よりの虐待、DV、性暴力等により複雑性PTSDを抱え、辛さを忘れるためや生きるために、自傷を繰り返します。精神科への強制入院で、医療者たちからの拘束という対応が、自身の権利を踏みにじられ、さらなる大きな心の傷となったようです。けれども、自らも医療者となり、現場での自分の患者さんへの対応や、看護師の患者に対する愚痴を聞き苦しみを重ねます。医療者との関係も、私は深く考えさせられ何とも言えない気持ちになりました。精神科医療に対する思いや患者への偏見の払拭も含めて、『「私は一人の人間だ」ということを承認してもらいたくて本にしたのだ。』この言葉を残して、齋藤塔子さんは2024年5月8日この世を去りました。ご冥福をお祈りいたします。

問題行動を起こす子どもたち、心の傷を誰にも話せなかったり、その傷にさえ気づかなかったり、また逆に身近なおとなをかばったり、すべて自分のせいだと引き受けてしまっていたり。子どものけんりを奪い、傷つけるさまざま糸の絡まりをほどきかけを作り、ほどき方を一緒に考えたりできればなど、思っています。齋藤塔子さんの自叙伝『傷の声』は、深く心に残る物語でした。

最後まで読んでくださりありがとうございました。

（ほりちゃん）



【メンバーエッセイ】

卒業の日に願うこと



卒業の日に願うこと

やっと雨が上がった卒業式の朝、私は初めて高校の正門をくぐった。そこは、彼女が三年間通い続けた場所。ここで、さまざまな経験をし、泣き、笑い、怒り、喜び、自分と向き合い、そして自分とは違う他者と関わりながら、過ごしてきたのだと思うと、胸の奥が熱くなった。

式が始まり、担任の先生が卒業生の名前を呼ぶ。一人ずつ壇上へと進む流れができていた。まずは階段の下へ、次に舞台脇で待機。そして、自分の名前が呼ばれたら校長先生の前へ。彼女の番が近づく。人から注目されることが一番苦手なはずなのに、リハーサル通りの足取りで歩いていく姿に、彼女なりの覚悟を感じた。他の生徒たちも、それぞれの思いを胸に、誇らしげに、あるいは神妙な面持ちで証書を受け取っていた。

生徒が入れ替わるたび、参列する保護者たちはわが子の晴れ姿をカメラに収めていた。私も、彼女の姿を写真に収めた。

これから先、自分の人生を手探りしながら、精一杯生きていくのだろう。自分なりの楽しみも見つけられるだろう。その道の途中で、迷ったり、立ち止まったりすることもあるかもしれない。それでも、いつでもどこでも、助けてと言える人がいる—そんな社会であってほしいと願う。

彼女と正門を一緒に出た、緊張したからだが緩み、ホッとしたような表情を見せていた。

今日、新しい一歩を踏み出した。これからの未来が、あたたかいものがありますように。

(あーみん)



ローズカーニバル フリーマーケット拠出品のお願い

5月18日(日)堺市西区の浜寺公園においてローズカーニバルが開催されます。えんぱわめんと堺はフリーマーケットに参加し、今回も売上金を障がいのある子ども達へのワークショップ費用などに活用します。タオルや食器類などなど、フリーマーケットへの品物の提供にご協力をお願いします!! えんぱわめんと堺事務所にお送りいただくか、事務所までお問合せください。



2024年度CAPの活動報告

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校 数	クラ ス 数	人数	校 数	クラ ス 数	人数	校 数	クラ ス 数	人数		
5月	0	0	0	1	2	46	0	0	0	2 (1)	30 (5)
6月	3	6	144	1	1	20	0	0	0	4 (4)	11(11)
7月	4	7	196	0	0	0	3	14	476	8 (8)	40 (40)
8月	5	11	261	0	0	0	0	0	0	5 (5)	16 (16)
9月	17	37	1000	0	0	0	0	0	0	18 (18)	54 (54)
10月	19	51	1459	0	0	0	0	0	0	19 (19)	70 (70)
11月	21	53	1501	0	0	0	1	4	139	22(22)	84 (84)
12月	11	22	604	1	2	27	3	11	375	15(15)	56 (56)
1月	5	13	383	1	1	26	1	7	226	7 (7)	30 (30)
2月	7	25	698	1	1	28	1	4	115	9 (9)	44 (44)
3月	1	2	64	0	0	0	1	1	20	2 (2)	13 (13)
合計	93	227	6310	5	7	147	10	41	1351	111 (110)	448 (423)

☆CAPスペシャルニーズプログラム子どもワークショップ 支援学校1校 2ワーク41人

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円 (入会金なし)

更新日は年2回(1月31日・8月31日)です。

- ◎ 会員有効期間は1年です。
- ◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 30名
 賛助会員 71名 (98口)
 寄附金 72,006円(2024年4月～2025年3月)
 2025年3月末現在

ESの活動はみなさまからの寄付、
 ご支援にささえられております。
 今後ともよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人えんばわめんと堺 / ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp <https://www.npo-es.org/>

ホームページや Facebook も見てね



編集後記 2025 大阪・関西万博が始まった。問題山積みのまま、そして跡地には IR が建設予定。費用を使うべきところは他にたくさんあるのに…。協力としてチケットを買い取っている企業も多らしく、わたしもチケットをもらった。ナンダカナ～とモヤモヤする。でも、もらったからには自分で行って、見て、色んなことを感じてこようと思う。「いのち輝く未来」というテーマ、人権や平和を考えるコンテンツもあるらしい。どのように表現されているんだろう？孫と一緒に行く予定、この子たちが誰ひとり取り残されることのない未来を切に願う。(しおちゃん)